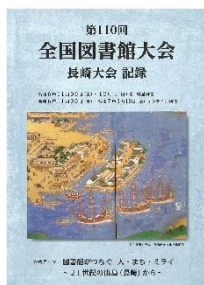


五島高校は令和6年度文部科学省「子供の読書活動優秀実践校」に選出され、大臣表彰を受賞。

第110回全国図書館大会長崎大会にてオンライン形式で事例発表を行った。以下、我が校図書館の事例報告が大会記録に掲載されたので、ご覧いただき皆様と共に学校の活躍を喜びたい。



主催：公益社団法人日本図書館協会、長崎県 ほか
編集：第110回全国図書館大会
長崎大会実行委員会

●第3分科会 学校図書館テーマ

主体的で探究的な学びを支える開かれた学校図書館の創造

五島高校事例報告

委員や本好きだけじゃない！ みんなで創る学校図書館

高木美由紀
長崎県立五島高等学校図書館司書

1 はじめに

本校は幕府最後に建てられた石田城の本丸跡にあり、創立以来124年の歴史と伝統を誇る文武両道の進学校である。

生徒は大学進学を目指す普通科普通コースのほか、県内の公立高校唯一の衛生看護科と、離島留学制度のある普通科スポーツコースが設置されており、専門知識や技能を習得するために多くの生徒が島外から集まっている。令和6年度の学校規模は、学級数18、生徒数369名、教職員数58名。

2 本校図書館の紹介

1998年に新校舎が造成され、図書館は生徒が利用しやすい出入口の正面に配置されている。蔵書数は約17,000冊。館内はぬくもりのある木製の書架が置かれ、全館LED照明で明るく、中庭にある噴水や植樹を眺めることができ、落ち着いた雰囲気ですぐに読書に親しむことができる。

学校図書館に係る取組は、研修図書部が担当しており、図書館諸業務は、図書館司書と研修図書主任で企画・運営している。開館時間は、8:20～16:50まで。生徒は昼休みと放課後の時間帯に本を借りることができ、授業やその他

の利用、急な本の貸出ができるよう司書室に司書が常駐している。館内の蔵書管理や整備はもちろんのこと、情報センターとしても開けた図書館の活性化に努めている。これまで来館者数を増やし、より多くの生徒・職員に読書に親しんでもらうとともに、諸資料を用いた探究学習や教科学習の充実を図ることを最大の目標としてきた。また、休み時間や放課後など生徒の居場所の一つとなるよう、心落ち着く癒しの空間として利用してもらえるよう様々な取組を行ってきた。



〈写真1 館内の様子〉

3 学校全体で取り組む

本校では、朝のSHR前の10分間、「豊かな時間」という時間が設けられている。月曜から木曜は「朝の読書」、金曜は「朝バラTimes」という取組を行っている。開始時には、放送部の生徒のアナウンスを録音した音声でお知らせし、それにふさわしい落ち着いたBGMを流している。

「朝バラTimes」は、時事的な問題に関する意見文を書き、意見集を作成する取組である。先生方に「今、生徒に読ませたい記事」を選書して頂き、それについての自分の考えを記入する。周囲の生徒とその内容をシェアし、互いに評価し合う。そのような活動を通して、継続的に知識や教養を身につけ、視野を広げ、文章読解力や表現力、他者の意見を客観的に見る力などを育成することを目指している。先生方の選書にあたっては、新聞記事や新書など、図書館にある資料も利用している。生徒の意見文は、年度末に「朝バラTimes意見集」としてまとめ、毎年図書館に収蔵している。

研修図書部では、図書館通信「ひだまり」を発行している。図書関係の行事や取組の紹介や、先生方のお勧めの本の紹介が中心である。生徒は先生方が勧める本にとっても興味がある。発行すると同時に貸出や予約が増え、職員のリクエスト、寄贈本も増えた。図書館通信は、各教室に掲示するほか、図書館や掲示板に書籍と一緒に展示している。

4月には、新1年生を対象に、図書館オリエンテーションを行っている。令和6年度は図書館の利用方法について説明した後に、「ショートストーリーメイキング」に挑戦した。テーマ「春」で班ごとに自由に物語を作成してもらい、想像力や文章力、企画力をクラス発表した。来年度は「ミニミニビブリオバトル」を実施する計画を立てている。

「全国読書週間」に関連した活動として、「子どもの読書週間」に合わせて、朝の読書啓発標語コンクールを行っている。全校生徒から標語を募り、職員の投票によって優秀作を表彰する。令和4年度に第65回全国こどもの読書週間標語募集において、このコンクールでの作品が佳作入選した。「秋の読書週間」前には、研修図書部が全校生徒に読書推進などの講話をする。また、地域の方や生徒向けに、校門付近の掲示板に読書啓発のメッセージを掲示している。

本校には常設の学級文庫がない。そのため期間限定で、クラス担任と副担任が館内の書籍を約20冊選書し、図書委員がクラスに設置する。生徒にとっては、普段なかなか手に取ることがない分野の本を知るきっかけとなり、読書の幅を広げることに繋がっている。また、先生方と生徒のコミュニケーションツールの一つにもなっているようだ。図書館に戻ってきた本は、本に選書履歴としてシールを貼っている。そうすることで、読書が苦手な生徒が図書館で本を手にするきっかけとなっている。

ライブラリーフェスティバルへの参加も近年積極的に行っている。令和3年度県南地区大会広報紙コンクールで初めて優秀賞、県大会POPコンクールでも優秀賞を獲得した。次年度よりオンラインで参加して、他校の館内の様子や蔵書数を知ることができた。特にビブリオバトルには刺激を受け、参加した生徒は他校の生徒の本への愛を感じ、その本が読みたくなったと充実した様子だった。

図書委員が図書の楽しさを広める活動の一環として、令和5年度から本校の文化祭で「ミニ・ビブリオバトル」を行っている。ビブリオバトルを島内で実施している小中学校がないため、本校では、ほとんどの生徒が未体験であった。この文化祭で図書委員が、全校生徒や来校した保護者・地域の方々に初めてビブリオバトルを披露したことで、新しい読書の楽しみ方として紹介できた。このように文化祭で多くの生徒に披露することで、本校の文化の一つとなり、活動してみたいと思う生徒を増やすことができると考えている。

図書館には、上映中の映画情報に関する掲示板がある。五島市には映画館がない。映画好きな生徒のために司書

が取り寄せたフライヤーを掲示している。複数枚あるものは持ち出し自由で、このコーナー目当てに図書館を訪れる生徒もいる。原作本がある映画については原作本も一緒に展示することで、貸出が大きく増加した。

その他、美術部や書道有志の生徒の作品を展示する場所として、探究学習や授業で調べ学習や交流会を行う場としても図書館を活用している。

4 生徒が主体で取り組む

学校には生徒会の委員会として図書委員会があり、各クラスから2名選出される図書委員が生徒の読書活動の中心となる。年度初めの話し合いでは、図書館の来館者が増え、より多くの本に触れるためのアイデアをみんなでブレインストーミングする活動を行う。ここで出た高校生らしい自由なアイデアを新たな取組として採用することもある。

昼休みと放課後の開館時間にはカウンター業務を輪番制で行い、本の貸出と返却の手続きや書架の整理等を行う。その傍ら、広報紙やPOPの作成・イベントの企画を練るなど、生徒たちが主体となって本を楽しむ機会を設けている。生徒がカウンター業務を行うことで、生徒同士の繋がりで図書館を訪れる生徒が増え、利用が活発になった。特に放課後には部活動の休日や早く終わった生徒が多く集まり、生徒の居場所となっている。



〈写真2 カウンター当番の様子〉

広報紙（図書だより）はかつて司書が作成していたが、令和3年度から毎月1回、図書委員が主体的に作成し、図書委員のお勧めの本の紹介、季節に合わせた本の特集、イベントのお知らせ等を載せている。挿絵は、図書委員だけでなくイラストレーション部の生徒に協力してもらい、華やかで目を引くクオリティの高いものになった。その効力は貸出数に影響があり、保護者からも貸出希望の問い合わせがあるほどだ。文化部活動の生徒にとっても、作品を校内で披露する場を増やすことができ、よい機会となっている。広報紙は紹介される本と一緒に図書館に掲示し、ホー

ムページにも掲載している。



〈写真3 広報誌(図書だより)〉

図書館前や館内の装飾においても、現在は図書委員がアイデアを考えて季節ごとに制作している。図書館前の校舎の玄関付近と、図書館入り口付近の2か所が自由に装飾できる大きなガラス張りの場所になっている。毎年1月は受験生の合格祈願をコンセプトに、新年の干支とともに校長・教頭・事務長の3人の似顔絵を描くことが恒例で、3月まで展示している。大変大掛りな絵になるため、美術部の協力を頂いて完成させている。これは保護者等の皆様にも好評を頂いている。

月1回程度昼休みに、校内放送「図書館ラジオ」を行っている。図書委員や研修図書部で企画した内容について、ラジオ番組の形式で校内放送を使い、生放送で全校生徒・職員に届ける。放送部がパーソナリティを務める。図書館に行けない生徒や読書が苦手な生徒でも、本に関心を持ってもらい、想像や想いを巡らせ友達同士で共感してもらいたいという趣旨だ。このように文化部活動とのコラボレーションが盛んなのが、本校図書委員会の特徴である。

新着本やお勧めの本の紹介コーナーや案内板づくりにも挑戦している。どうしたら見やすいか、多くの本を手にとってもらえるか、よいディスプレイの在り方を目指している。案内板は図書館の前だけでなく、教室のあるフロアの廊下にも設置した。該当の本への問い合わせが増えるだけでなく、図書委員になってそれを書きたいと申し出てくれる生徒や、図書委員でなくても手伝ってくれる生徒が増えた。

POP 作りについても紙一枚を使って相手に「伝える力」をつけるいい機会だと考える。POP を書いた生徒とその本を借りて読んだ生徒が感想を交換し合うなど、微笑ましい交流があった。

ライブラリーカフェというイベントの運営も行ってい

る。月に1回程度、昼休みにALT とともに過ごそうという取組である。英語や外国文化についてのクイズや外国の児童文学の読み聞かせなどを行う。英語が好きな生徒、国際系の進学を考えている生徒が多く参加する。内容については、ALT が考えるが、企画・広報・進行などは全て図書委員で行っている。

文化祭では「図書館クイズ」を行っている。全校生徒が集まる場で本や話題のニュースについて取り上げ、発表する機会はとても貴重である。

5 おわりに

コロナ禍の令和2年～4年の図書館利用は、休校の日も多く、開館できた日数が少ない年もあったにも関わらず、コロナ禍前よりも多い貸出冊数を記録した。これもコロナ禍でのステイホーム期に図書館の本を利用してもらうことができた結果でもあると思う。過去5年間の生徒一人当たりの年間貸出冊数は11冊で、コロナ禍後も大きな増減なく推移している。

本校の図書館は、読書を好きな生徒だけが来る場所、図書委員だけがいる場所でない、多くの人を巻き込む場所としての図書館を目指している。様々な部活動生、興味ある活動に取り組んでいる生徒、保護者等や地域の方々、先生方など多くの方の協力を頂き、みんなが集まり交流できる場所になることができれば、もっと多くの生徒に足を運んでもらい、本に触れるという本来の目的での利用もさらに促進されたいと考える。これからも様々な取組を通じて、それぞれが豊かな学校生活を送っていく上で欠かせないものになるよう力を尽くしていきたいと考える。



〈写真4 文部科学大臣賞状と令和6年度図書委員〉